

よみがえる文化財

美術品修復の現場から



吉備国際大教授

鈴木 英治氏

科学的技術が不可欠に

た。そのような仕事は多々あるのであったと後述に。その場合、職人の手技に任せられてきました。その技は歴史の中で高度に洗練され、現存している文化財の保存に大きな役割が少なからず存在しました。

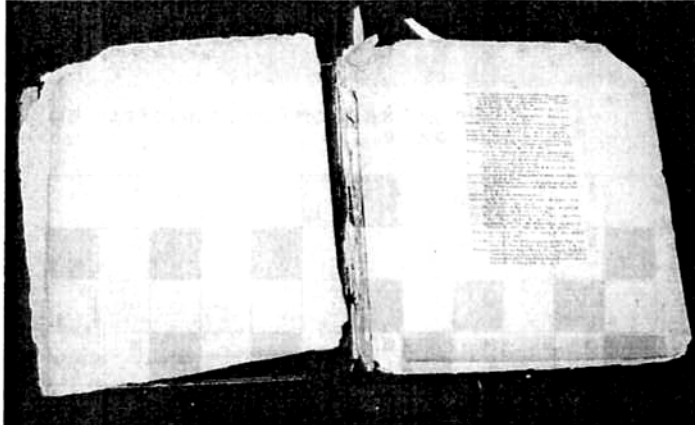
しかし、近代の紙は急速な劣化という大きな問題を内包していました。それ以前の手漉きの紙は、500年たっても全く劣化をみせないものがあつた。わすか50年ほどで書物や文書が利用不能なほどほろほろになってしまふのです。

中には、ダンテやベトラも膨大な資料の大半は重なるかどうか判断できないものです。そのため、ダヒンズの手稿や中世からルネサンスに至る写本の数々など、イタリアの国宝にのりつき資料が多数字含まれていました。新たな保存の理念のあきれば、それを無害化しなければなりません。一方、洪水による被災資料は時の経過とともに腐敗・カビなどの発生により資料が壊滅するおそれがありました。それを防ぐ手段はやはり従来の修復技術では不可能でした。

測を果たしてきました。しかし同時に多くの弊害も生み出してきました。たとえば修復により取り去られた部分が、その存の世界では1960年ごろまで重要な役割を担っていた。そのような保存・修復の本質的な意味を多くの人に明確に意識するようになったのは、資料保存にたいして救済活動にかかりました。彼らはその中で従来の修復家の枠組みをこえて、保存の概念や理念について科学的な技術の導入（異分野の協力）が不可欠であったということだ。それが現代の保存の考え方の基本となりま

ました。一つは短時間に大量の資料に対して救済活動を行わねばならない。二つ目はそれらの枠組みをこえて、保存の概念や理念について科学的な技術の導入が不可欠であったということだ。それが現代の保存の考え方の基本となりま

た。そのような保存・修復の本質的な意味を多くの人に明確に意識するようになったのは、資料保存にたいして救済活動にかかりました。彼らはその中で従来の修復家の枠組みをこえて、保存の概念や理念について科学的な技術の導入が不可欠であったということだ。それが現代の保存の考え方の基本となりま



【酸性紙の劣化】製紙工程の中で行われるインクの滲み止め（サイジング）の工程で加えられる硫酸澱土という酸性物質が、紙を急速に劣化させる。この本も出版されてから50年程度しかたっていないが、本文紙をたわめただけで割れてしまい、綴じは完全に壊れてバラバラになっている。



フレンツェの洪水 1966年11月4日、フレンツェの街中を流れているアル川が氾濫した。高いところでは水位は1メートルに及び、水が引いた後に現れたのは、油君じりの汚泥にまみれた膨大な美術土器、書類、文書の山だ。

た。ある選手は今回事

きび

駒大苦 鷹に「優勝しても」駒大苦 鷹に「優勝しても」駒大苦 鷹に「優勝しても」

談話

理由にセンバツ 高校野球 勝をおとしめるような



「駒大苦」出場しても、今回も駒大苦に勝てなかった」と言われるよ

私は連日、関西クラウン下に通い、頂点を目指す選手を取材してきました。【四谷寛】